



# AT-LP8X

セミオートダイレクトドライブターンテーブル

---



## 取扱説明書

# はじめに


本製品は、販売国でのみ使用できます。本製品の電圧、電源ケーブルのプラグがお住まいの国に適合していることをご確認ください。


# 安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために次の内容を必ずお守りください。

 <b>警告</b>	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
 <b>注意</b>	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

## 本製品について

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>付属の電源ケーブル以外使用しない</b> 電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。</li><li>● <b>異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない</b> 異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>火気に近づけない／火の付いたキャンドルなどを上に置かない</b> 火災の原因になります。</li><li>● <b>分解や改造はしない</b> 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>強い衝撃を与えない</b> 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>濡れた手で触れない</b> 感電によるけがの恐れがあります。</li><li>● <b>水をかけない／水滴や水しぶぎのかかる場所に置かない</b> 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない</b> 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>じゅうたんや布などで覆わない</b> 過熱による火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない</b> 事故や火災の原因になります。</li></ul>
---	--

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>不安定な場所に置かない</b> 本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。</li><li>● <b>換気の良い場所に置く</b> 本製品を換気の悪い場所に置くと、熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは、放熱をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。</li><li>● <b>直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない</b> 感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。</li><li>● <b>本製品の上に物（花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属など）を置かない</b> 万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。</li><li>● <b>ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない</b> 変形、故障の原因になります。</li></ul>
---	--

## 電源ケーブルについて

### ⚠ 警告

- **表示している電源電圧以外で使用しない**  
過熱による火災など事故の原因になります。
- **本製品以外には使用しない**  
過熱による火災など事故の原因になります。
- **異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない**  
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **ケーブルは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない**  
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**  
過熱による火災など事故の原因になります。
- **ケーブルを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**  
断線、故障の原因になります。
- **ケーブルの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**  
断線、故障の原因になります。
- **分解や改造はしない**  
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**  
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**  
感電によるけがの恐れがあります。
- **布などで覆わない**  
過熱による火災など事故の原因になります。
- **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**  
過熱による火災など事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない**  
変形、故障の原因になります。

### ⚠ 注意

- **長時間使用しないときは、コンセントから抜く**  
省エネルギーにご配慮ください。
- **足に引っ掛かりやすい場所にケーブルを引き回さない**  
故障や事故の原因になります。
- **通電中の電源ケーブルに長時間触れない**  
低温やけどの原因になることがあります。

# 使用上の注意

## ターンテーブル本体について

- 温度や湿度の高い場所、ほこりの多い場所、大きな振動がある場所には本製品を設置したり使用しないでください。
- 本製品は、傾きのない水平な場所に置いてください。
- ダストカバーを開け閉めする際は、ゆっくりと行ってください。また、ダストカバーを閉じる際は、完全に閉じてください。

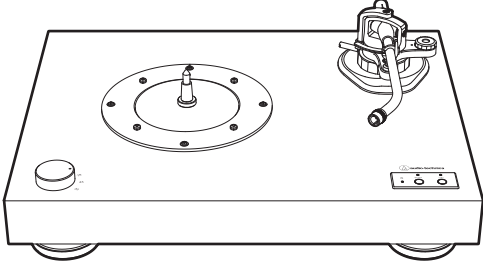
## カートリッジについて

- スタイラス（針）は非常に繊細にできていますので、取り扱いには十分ご注意ください。
- 本製品を使用しないときは、付属のプロテクターをカートリッジに取り付けてください。
- カートリッジのスタイラス（針）に指で触れないでください。
- カートリッジのスタイラス（針）をプラッター、ラバーマットやレコードの縁部にぶつけないでください。
- カートリッジを床や机などに置く際は、プロテクターを必ず取り付けてください。スタイラス（針）を下にして床や机に置かないでください。スタイラス（針）が傷ついたり、欠けたり、破損する可能性があります。
- 本製品のカートリッジはDJ用ではありません。スクラッチプレイ（ターンテーブルに載せたレコードを手でこすって音を出すこと）などのスタイラス（針）を傷つける操作は行わないでください。
- スタイラス（針）をレコードに載せた状態でスタイラス（針）に横方向の力を加えないでください。スタイラスチップ（針先）が傷ついたり、欠けたり、破損する可能性があります。また、レコードが傷つく可能性があります。

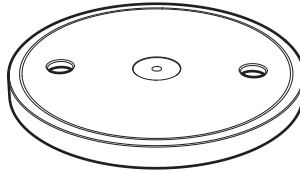
# 同梱品の確認

- 本製品をご使用になる前に、同梱品がすべてそろっていることを確認してください。
- 万一、同梱品に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社窓口までご連絡ください。
- ご購入後、保管、移動、輸送する場合に備え、すべての梱包材を保管しておくことをおすすめします。

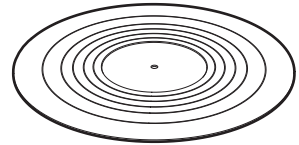
1



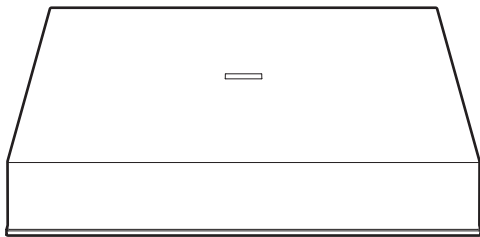
2



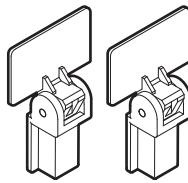
3



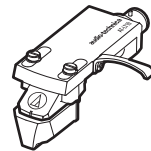
4



5



6



7



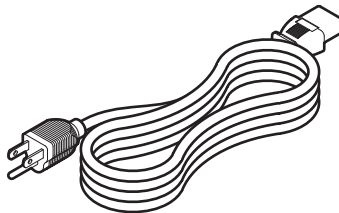
8



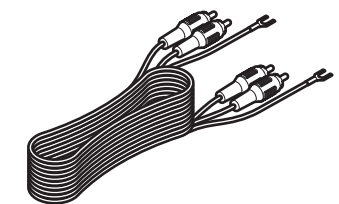
9



10



11



12



13



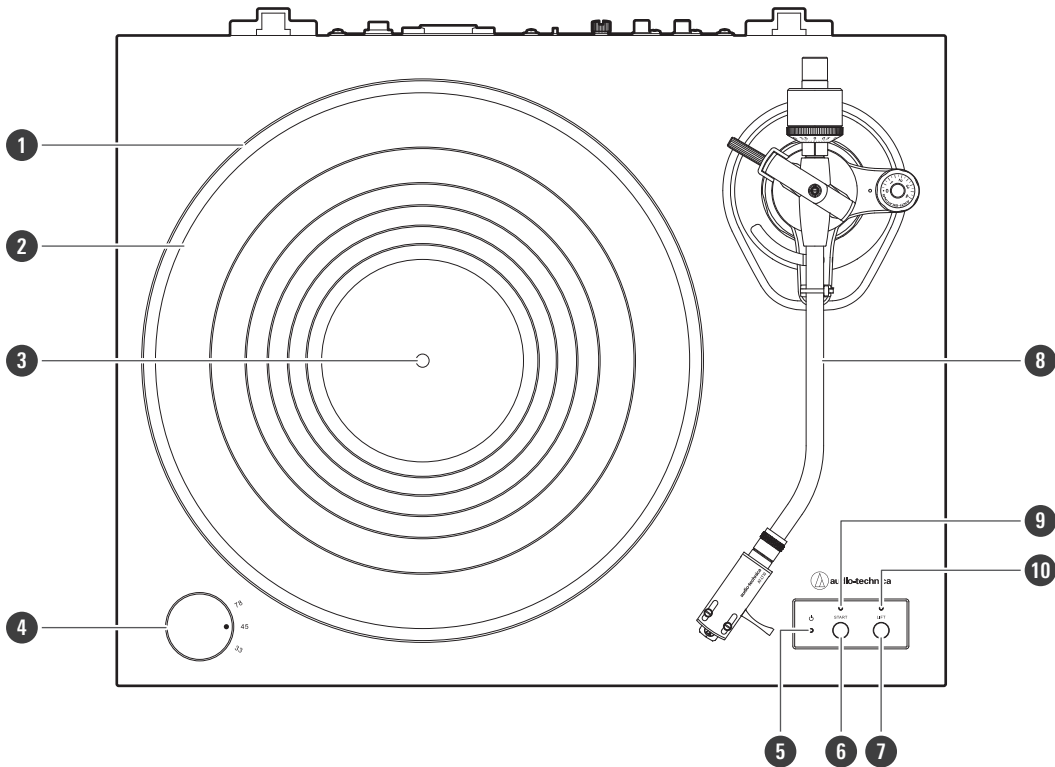
- 1 ターンテーブル本体
- 2 プラッター
- 3 ラバーマット
- 4 ダストカバー
- 5 ダストカバーヒンジ
- 6 カートリッジ付きヘッドシェル

## 同梱品の確認

- ⑦ カウンターウエイト
- ⑧ サブカウンターウエイト
- ⑨ EPアダプター
- ⑩ 電源ケーブル (約1.8m)
- ⑪ オーディオケーブル (約1.0m)
- ⑫ クイックスタートガイド
- ⑬ 取扱注意ガイド

# 各部の名称と機能

## 天面



① プラッター

② ラバーマット

③ スピンドル

④ コントロールノブ

プラッターの回転数（33-1/3回転/分、45回転/分、78回転/分）の選択に使用します。

⑤ 電源インジケータ

電源がONになっていることを青色点灯で表示します。

⑥ STARTボタン

⑦ LIFTボタン

⑧ トーンアーム

⑨ STARTインジケータ

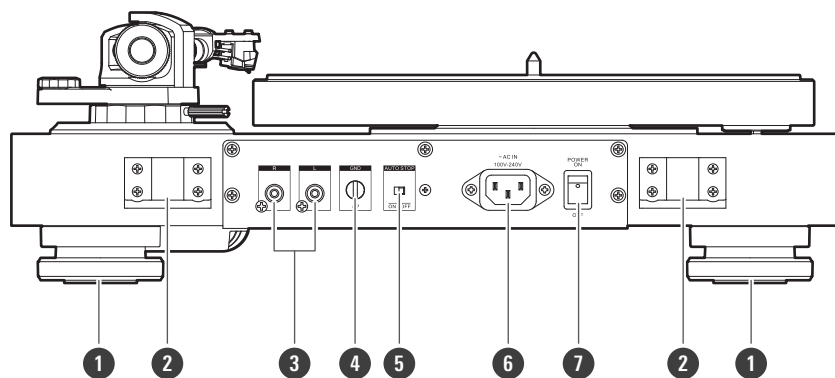
プラッターが回転していることを青色点灯で表示します。また、オートストップ機能が作動すると、青色で点滅します。

⑩ LIFTインジケータ

アームリフターが上がっていることを赤色点灯で表示します。

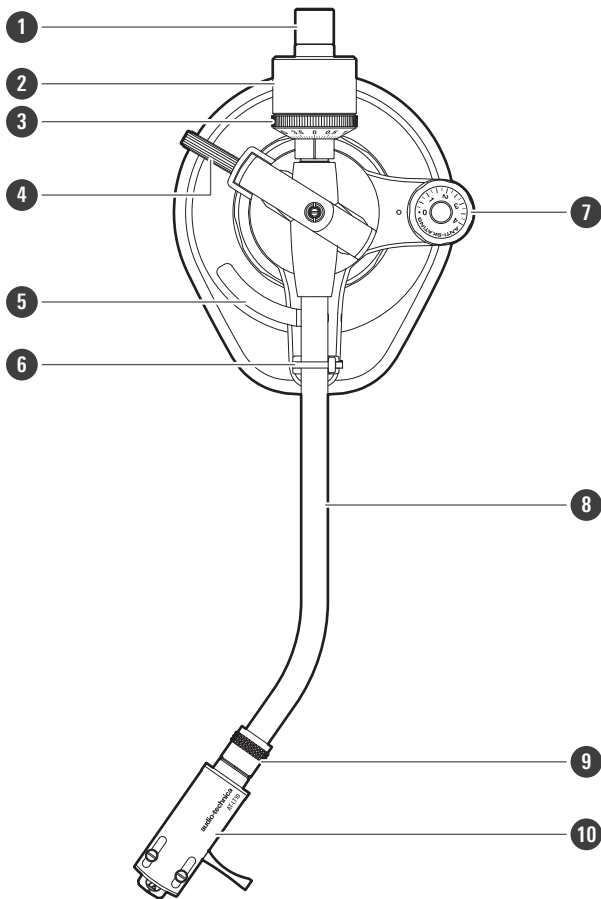


## 背面



- 1 脚部**  
本製品の水平調整をします。
- 2 ヒンジホルダー**  
ダストカバーのヒンジを取り付けます。
- 3 ステレオ出力端子**  
オーディオケーブルを接続します。アンプのPHONO入力端子に接続してください。赤色端子が右チャンネル、白色端子が左チャンネルです。
- 4 グランド（アース）端子**  
アンプのグランド（アース）端子とこの端子を、オーディオケーブルのアース線で接続します。
- 5 AUTO STOPスイッチ**  
オートストップ機能をON/OFFします。
- 6 電源入力端子**  
電源ケーブルを接続します。
- 7 電源スイッチ**  
電源をON/OFFします。

## トーンアーム



- ① サブカウンターウエイト  
カウンターウエイトのみでトーンアームのバランスを調整できない場合に取り付けます。
- ② カウンターウエイト  
トーンアームのバランスを取り、適切な針圧に調整します。
- ③ 針圧調整リング  
針圧を調整する際に使用します。
- ④ トーンアーム高さ調整用レバー  
左右に移動してトーンアームの高さを調整します。
- ⑤ アームリフター  
トーンアームをレコード盤面から上下させます。
- ⑥ クランプ付きアームレスト  
トーンアームが動かないようにクランプを使用して、固定することができます。
- ⑦ アンチスキッピング調整ダイヤル  
レコードの再生中、スタイラスチップ（針先）が内側へ引っ張られる力が発生します。アンチスキッピングの値を針圧値と同じに設定することで、その力に抵抗します。
- ⑧ トーンアーム

## 各部の名称と機能

### 9 ロックナット

リング部を反時計方向（左）に回すと、ヘッドシェルが固定されます。ヘッドシェルを取り外すには、リング部を右に回転させます。

### 10 ヘッドシェルとカートリッジ

ヘッドシェルに、カートリッジが付いています。

# 使用前の準備

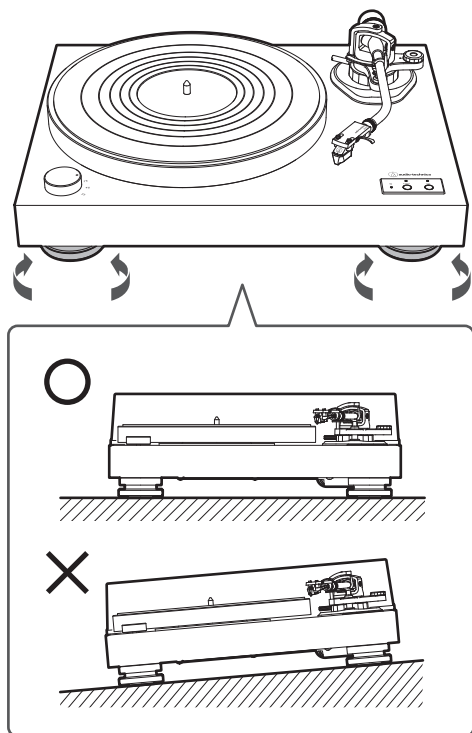
## 設置する

- 本製品を設置するときは、水平な場所に設置してください。
- 音圧や振動の影響を避けるため、スピーカーなどから離して設置してください。
- ラジオなどを本製品に近づけると、ラジオに雑音が入る場合があります。できるだけ本製品から離してください。
- 本製品の近くに強い電波を発生させる機器（携帯電話など）があると、ノイズが発生する場合があります。

### 水平調整をする

使用する場所に設置したあと、本製品が水平になるように脚部を調整します。

- 必要に応じて水準器（別売）を使用し、水平調整を行ってください。



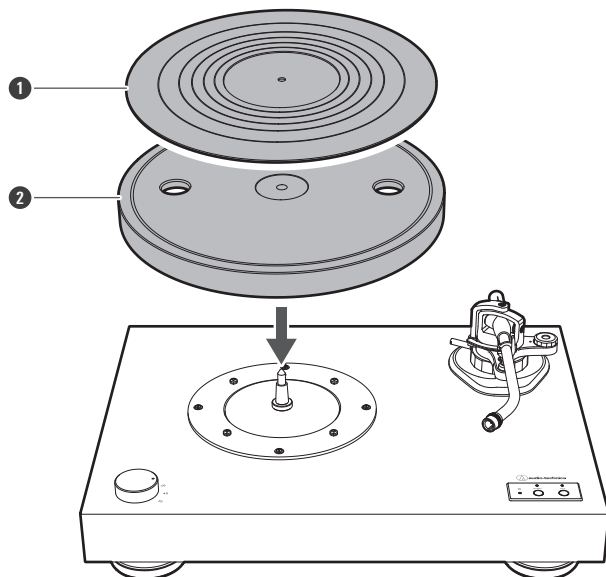
## プラッターとラバーマットを取り付ける

本製品は、初めてご使用になる前に組み立て作業が必要です。

- 1 電源をOFFにした状態で、プラッターとラバーマットをスピンドルに取り付けます。

## 使用前の準備

- スピンドルの破損を防ぐため、プラッターを取り付けるときは、プラッターの穴とスピンドルの位置を合わせてゆっくりと取り付けてください。
- プラッターとラバーマットがスピンドルに確実に装着されたことを確認します。



- ① ラバーマット
- ② プラッター

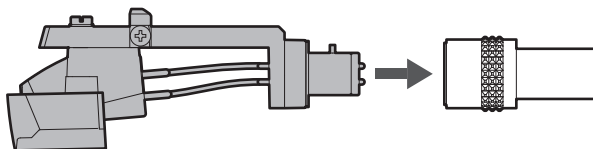
## トーンアームをセットアップする

### 1 工場出荷時の、トーンアーム固定用結束バンドを取り外します。

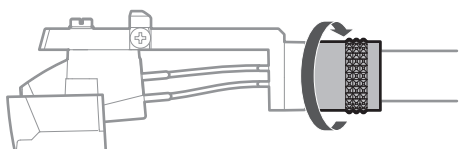
- トーンアームをアームレストに一時的に固定するにはクランプを使用します。

### 2 ヘッドシェルをトーンアームに差し込みます。

- スタイラス（針）を傷めたりカートリッジの配線を切らないように、ヘッドシェルの左右の縁部を持ってください。

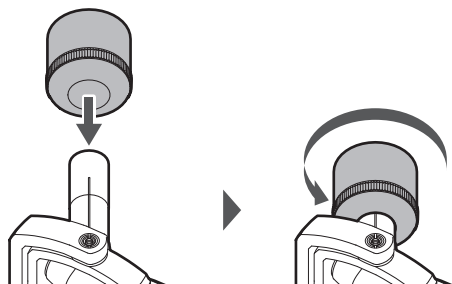


### 3 ヘッドシェルを差し込んだまま、ロックナットを反時計方向（左）に回します。



## 使用前の準備

- 4 トーンアームの後部にカウンターウェイトを取り付けて反時計方向（左）にゆっくり回します。



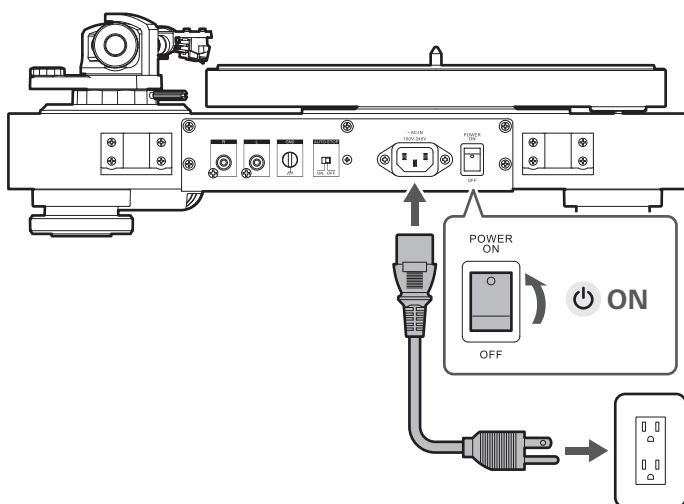
## トーンアームの水平バランスと針圧の調整について

カートリッジがレコードの溝から正確に音を拾うために、カートリッジの仕様に合わせて、トーンアームの水平バランスと針圧を調整する必要があります。トーンアームの水平バランスと針圧調整が不十分だと、カートリッジのスタイラス（針）やレコードを傷める恐れがあります。

- 水平バランスと針圧の調整を行っているとき、ラバーマットやレコードの上でカートリッジのスタイラス（針）を引かずらないでください。スタイラス（針）が破損する恐れがあります。

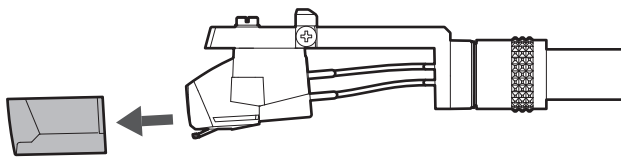
## 水平バランスを調整する

- 1 電源ケーブルを接続し、電源スイッチをONにします。

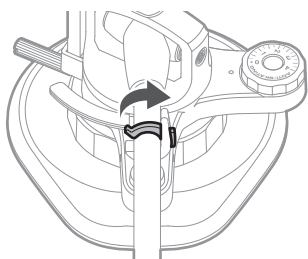


- 2 カートリッジのプロテクターを取り外します。

## 使用前の準備

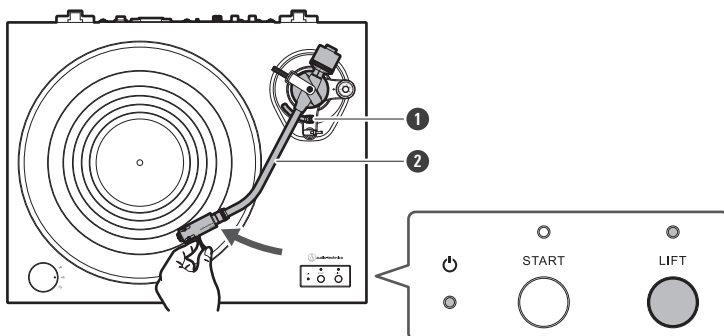


### 3 クランプを取り外します。



### 4 ラバーマットの上にトーンアームを移動します。ヘッドシェルを持ったまま、LIFTボタンを押します。

- スタイルチップ（針先）がラバーマットに触れないようにしてください。



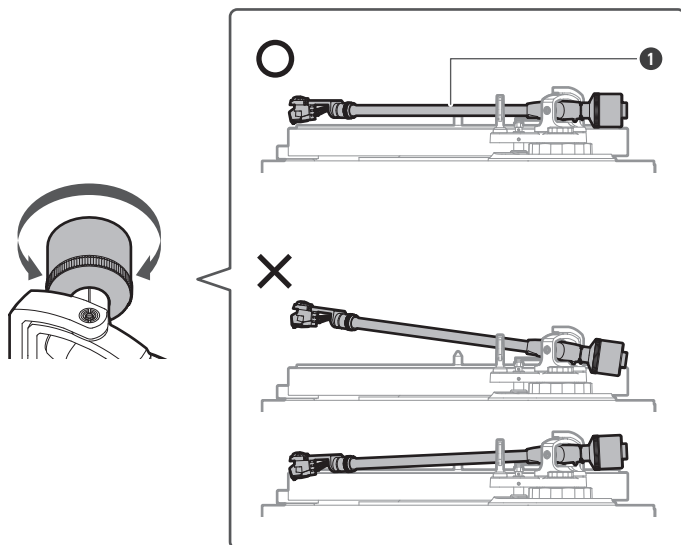
- ① アームリフター
- ② トーンアーム

» アームリフターが下がります（LIFTインジケーター：消灯）。

### 5 ヘッドシェルを軽く持ったままカウンターウェイトを回してトーンアームの水平バランスを調整します。

- 手を離れたときにトーンアームが水平になるように調整してください。

## 使用前の準備



① トーンアーム

**6** トーンアームをアームレストに戻します。

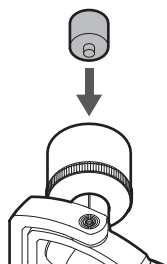
**7** 電源スイッチをOFFにします。

### サブカウンターウェイトの取り付けかた

カウンターウェイトのみでトーンアームの水平バランスを調整できない場合に、サブカウンターウェイトを取り付けてください。本製品付属のカートリッジ以外の市販品を使用する際に必要になる場合があります。

**1** トーンアームの後部にサブカウンターウェイトを取り付けます。

- サブカウンターウェイトを取り付ける際は、トーンアームをアームレストに固定した状態で行ってください。

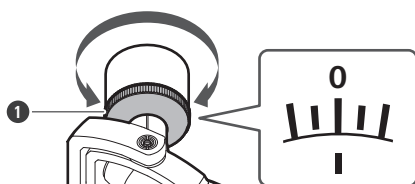




### 針圧を調整する

- 1 カウンターウェイトが動かないように押さえながら、針圧調整リングの「0」の位置がトーンアーム後部のセンターラインと重なるように回します。

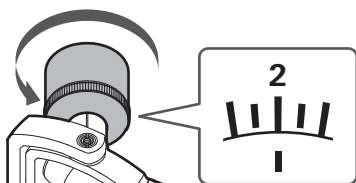
- 針圧調整リングを回しても針圧は調整されません。



- 1 針圧調整リング

- 2 カウンターウェイトと針圧調整リングを反時計方向（左）に回して、ご使用のカートリッジの推奨針圧値に合わせます。

- 推奨針圧値については、カートリッジメーカーの仕様を参照してください。
- 本製品付属のカートリッジの針圧値は2.0gです。



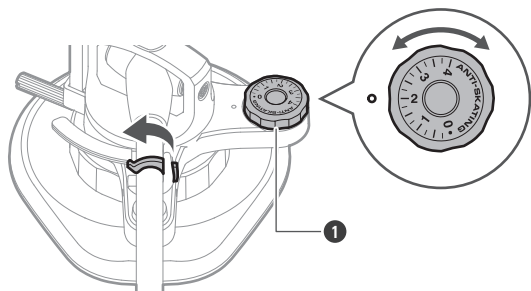
### アンチスケーティングを調整する

レコードの再生中、スタイラスチップ（針先）が内側へ引っ張られる力が発生します。アンチスケーティングの値を針圧値と同じに設定することで、その力に抵抗します。

- 1 アンチスケーティング調整ダイヤルを針圧値と同じ値に調整します。

- 本製品付属のカートリッジの針圧値は2.0gです。

## 使用前の準備

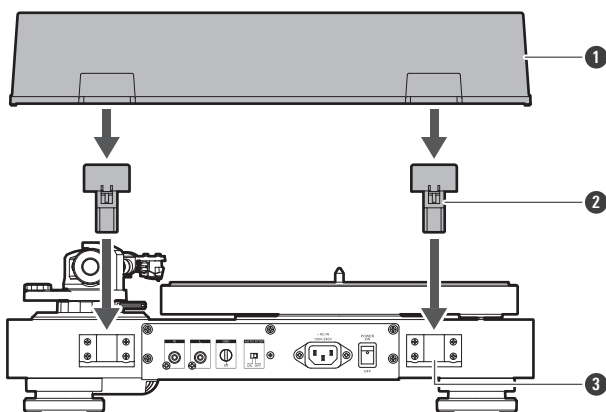


① アンチスクレーティング調整ダイヤル

## ダストカバーを取り付ける

ダストカバーは本製品を使用しない際に、本製品の繊細な部分を保護するためのものです。

- 1 ダストカバーヒンジを本体背面の2つのヒンジホルダーに差し込み、ダストカバーヒンジにダストカバーを取り付けます。



- ① ダストカバー
- ② ダストカバーヒンジ
- ③ ヒンジホルダー



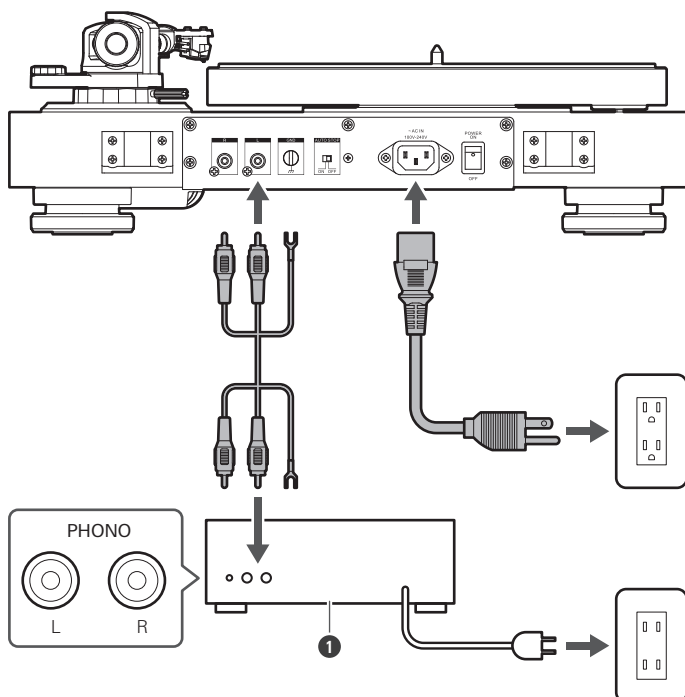
- ダストカバーを取り外す際は、ダストカバーヒンジからダストカバーをゆっくり抜きます。

# 使用する

本製品は、フォノイコライザー機能を内蔵していません。フォノイコライザーまたは、フォノイコライザーを内蔵したアンプのPHONO入力端子にオーディオケーブルを接続して使用してください。

## フォノイコライザー／フォノイコライザー内蔵アンプと接続する

オーディオケーブルの赤色端子が右（R）チャンネル、白色端子が左（L）チャンネルです。



① フォノイコライザー／フォノイコライザー内蔵アンプ



- ご使用の接続機器によっては、PHONO入力端子の近くにグランド（アース）端子が搭載されている場合があります。その場合は、オーディオケーブルのアース線で接続します。レコード再生時のノイズ（ブーンという低い雑音のハム音）が少なくなることがあります。
- 電源ケーブルにアース線がある場合は、アース線を接続してご使用ください（電源ケーブルの形状は販売国によって異なります）。

## 再生の前に

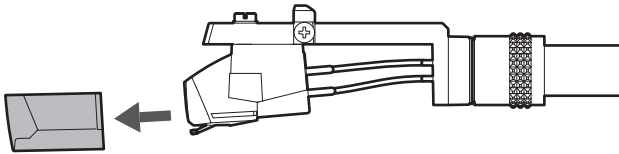
- 1 電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

## 使用する

- 電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。電源ケーブルが接続された状態で電源スイッチがONになっていると、使用していないときも待機電流が流れています。

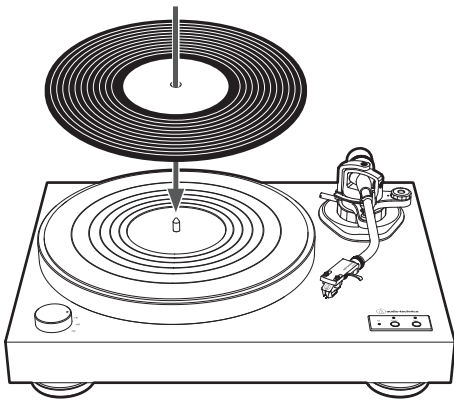
### 2 カートリッジのプロテクターを取り外します。

- まっすぐ手前に引き抜いてください。
- トーンアームがアームレストに固定されている場合は、クランプを取り外します。



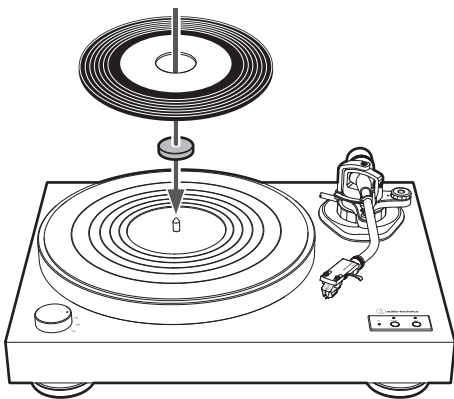
### 3 レコードを、中心の穴がスピンドルに合うようにラバーマットの上に乗せます。

33-1/3回転時、78回転時



45回転時

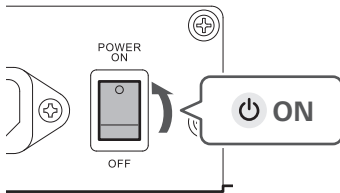
EPレコードの場合は、EPアダプターを取り付けてください。



## 再生のしかた

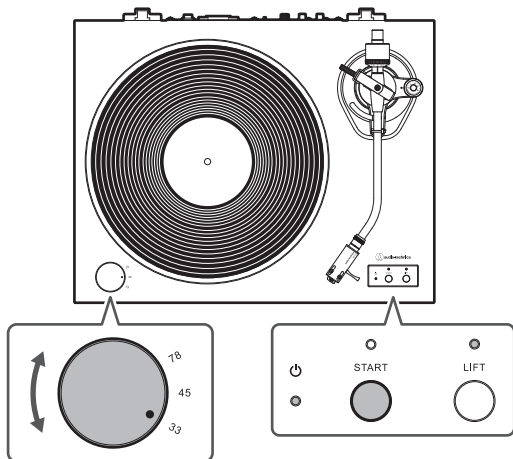
アンプやアクティブスピーカーなどの音量を充分小さくしておいてください。

### 1 電源スイッチをONにします。



### 2 コントロールノブで回転数を選択し、STARTボタンを押します。

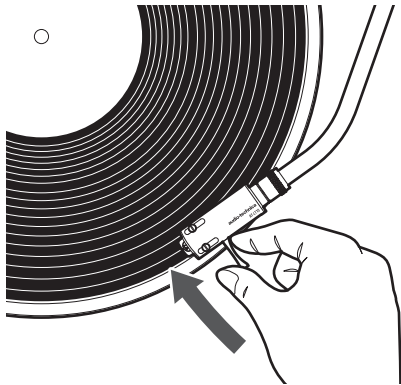
- 33-1/3回転レコードの場合は「33」、45回転レコードの場合は「45」、78回転レコードの場合は「78」を選択してください。



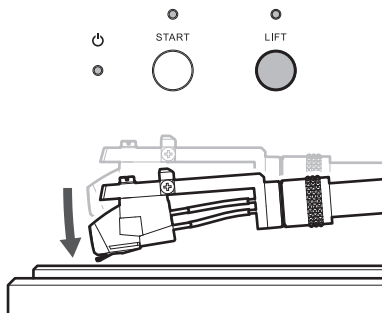
» プラッターが回転し始めます (STARTインジケーター：青色点灯)。

### 3 レコードの聴きたい位置 (溝) の上にトーンアームを移動させます。

## 使用する



### 4 LIFTボタンを押します。



≫ アームリフターが下がって（LIFTインジケータ：消灯）トーンアームがレコード盤面までゆっくり降り、再生が開始されます。



- 再生中は本製品に衝撃などを与えないでください。

## 再生を中断する

### 1 アンプなどの音量を充分小さくします。

### 2 LIFTボタンを押します。

≫ トーンアームが上がります（LIFTインジケータ：赤色点灯）。

# 停止する

- 1 アンプなどの音量を充分小さくします。
- 2 LIFTボタンを押します。  
≫ トーンアームが上がります（LIFTインジケーター：赤色点灯）。
- 3 トーンアームを元の位置に戻し、クランプで固定します。
- 4 STARTボタンを押します。  
≫ プラッターが制動され、回転が停止します（STARTインジケーター：消灯）。
- 5 プロテクターを取り付けます。
- 6 プラッターが完全に停止したあと、レコードを取り外します。



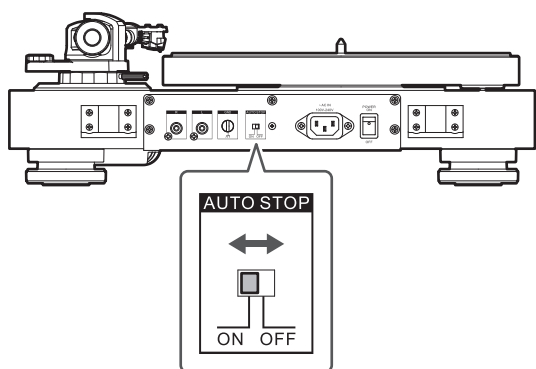
- ラバーマットが汚れているとレコードに傷が付きやすくなりますので、定期的にラバーマットを取り外して、ほこりなどを払ってください。
- 使用後は、レコードの傷付きや反りを防止するため、レコードを取り外してください。
- ディスクスタビライザーは使用しないでください。
- 付属品以外のプラッターは使用しないでください。
- 本製品はDJ用ではありません。再生中のレコードやプラッターには触れないでください。スクラッチプレイ（ターンテーブルに載せたレコードを手でこすって音を出すこと）などのスタイラス（針）を傷つける操作は行わないでください。
- スタイラス（針）をレコードに載せた状態でスタイラス（針）に横方向の力を加えないでください。スタイラスチップ（針先）が傷ついたり、欠けたり、破損する可能性があります。また、レコードが傷つく可能性があります。

# オートストップ機能について

レコードが最後まで再生されると、自動でトーンアームが上がリ、プラッターの回転が停止する機能です。

- STARTインジケーターが青色で点滅します。
- 本体背面のAUTO STOPスイッチでON/OFFを切り替えることができます（デフォルトはON）。

## 使用する



- 一部のレコード（12インチシングルやSPレコードなど）ではオートストップ機能が正しく動作しないことがあります。
- 一部のレコードで最後まで再生されない場合には、オートストップ機能をOFFにしてご使用ください。



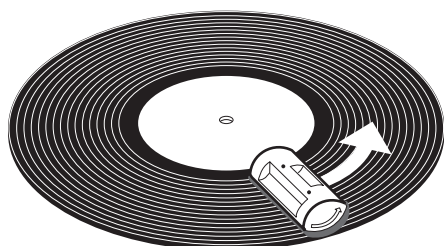
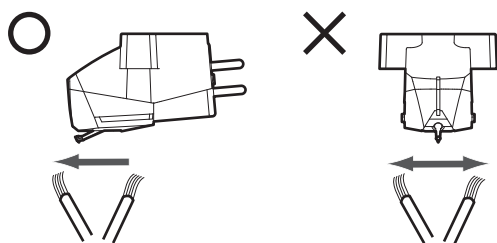
# お手入れ

## 本体のお手入れ

- 汚れたときやほこりが付いたときは電源スイッチをOFFにしたあと、電源ケーブルを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- ラバーマットが汚れているとレコードに傷が付きやすくなりますので、定期的にラバーマットを取り外して、ほこりなどを払ってください。
- 長い間保存するときには、電源スイッチをOFFにしたあと、電源ケーブルをコンセントから抜き、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

## カートリッジのスタイラスチップ（針先）／レコードのお手入れ

- スタイラスチップ（針先）にごみや汚れが付着した場合は、必要に応じてお手入れを行ってください。お手入れの際は、電源スイッチをOFFにしたあと、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 汚れがひどい場合は、スタイラスクリーナー（当社別売）をおすすめします。根元からスタイラスチップ（針先）へ向かってブラシを動かしてクリーニングしてください。
- レコードクリーナー、スタイラスクリーナー（当社別売）について詳しくは、当社ホームページ（<https://www.audio-technica.co.jp/>）をご確認ください。



# 針交換のしかた

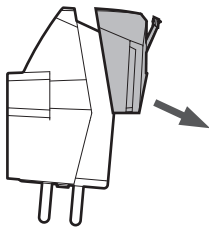
## 交換針の取り外しかた

- カートリッジのスタイラスチップ（針先）が磨耗すると音質が悪くなるばかりでなく、レコードを傷める原因になります。
- 再生時間は300時間を目安に交換してください。
- 必ず電源スイッチをOFFにしたあと、本製品の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 針交換を行う場合は、ヘッドシェルとカートリッジ本体をしっかりと持ちください。

### 1 ヘッドシェルをトーンアームから取り外します。

- クランプを使用してトーンアームを固定しておき、ゆっくりとヘッドシェルを取り外してください。

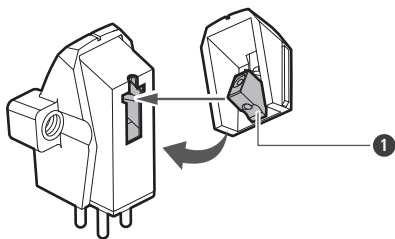
### 2 カートリッジのプロテクターを取り外したあと、カンチレバー、スタイラスチップ（針先）やマグネットに触れないように交換針を矢印の方向に引っ張って、取り外します。



- 交換針のカンチレバー、スタイラスチップ（針先）、マグネットに触れないでください。

## 新しい交換針の取り付けかた

### 1 新しい交換針をカートリッジに取り付けます。



- ① 内側の突起の位置を合わせる

### 2 ヘッドシェルをトーンアームに取り付けます。



- 交換針のカンチレバー、スタイラスチップ（針先）、マグネットに触れないでください。

# カートリッジ交換のしかた

- 市販のカートリッジに交換する場合、使用するカートリッジの取扱説明書を参照して交換してください。
- 新しいカートリッジに交換したあと、水平バランスや針圧、オーバーハングなどの調整を再度行う必要があります。

## 1 ヘッドシェルをトーンアームから取り外します。

- クランプを使用してトーンアームを固定し、ゆっくりとヘッドシェルを取り外してください。

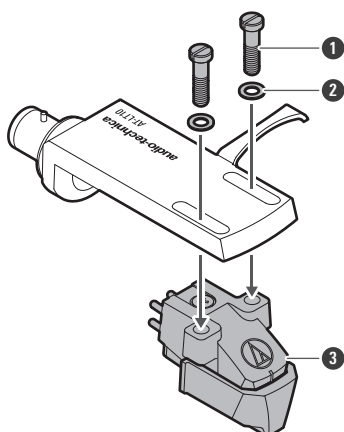
## 2 カートリッジから交換針を取り外します。

## 3 リードチップを取り外します。

- リード線が切れないように注意してください。

## 4 取り付けビスを市販の非磁性マイナスドライバーなどで取り外して、カートリッジをヘッドシェルから取り外します。

## 5 新しいカートリッジの取扱説明書を参照し、カートリッジをヘッドシェルに取り付け、リードチップを接続します。



- ① 取り付けビス
- ② プラスチックワッシャー
- ③ カートリッジ

## 6 2箇所のビスを市販の非磁性マイナスドライバーなどで緩めて、オーバーハングの調整をします。

- 「オーバーハングの調整」(p.29)を参照してください。
- 調整終了後はビスを確実に締めてください。

## 7 トーンアームに取り付けます。

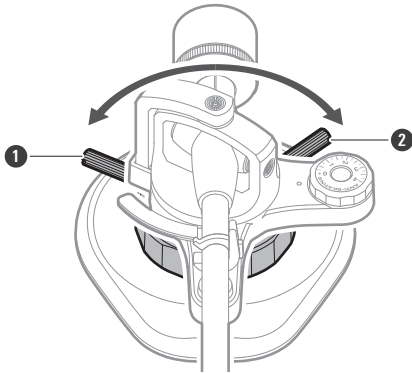
## 8 水平バランスや針圧の調整を行います。

- 「水平バランスを調整する」(p.13)と「針圧を調整する」(p.16)を参照して調整してください。

# トーンアームの高さ調整

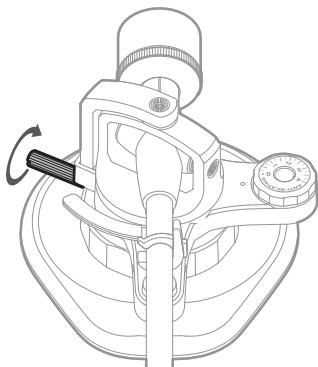
付属のカートリッジ以外を取り付ける場合は、カートリッジとレコードの間に適切な距離をとる必要があります。推奨針圧値に調整したカートリッジのスタイラスチップ（針先）をレコードに当て、トーンアームがレコード盤面と平行になっていることを確認してください。平行でない場合は、トーンアームの高さを調整してください。

- お買い上げ時は、トーンアーム高さ調整用レバーがカウンターウエイトの真下にあります。

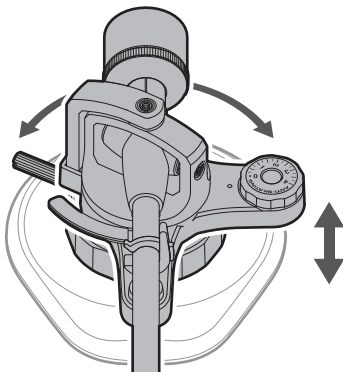


- ① トーンアーム高さ調整用レバーの位置を左にすると、トーンアームが低くなります。
- ② トーンアーム高さ調整用レバーの位置を右にすると、トーンアームが高くなります。

**1** トーンアーム高さ調整用レバーを回してロックを解除します。

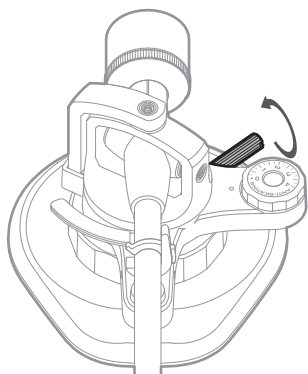


**2** トーンアーム高さ調整用レバーを左右に移動して、トーンアームの高さを調整します。



## トーンアームの高さ調整

- 3** トーンアーム高さ調整用レバーを回してロックします。



- 4** ラバーマットの上にレコードを置き、トーンアームをレコードの上に置きます。カートリッジのスタイラスチップ（針先）をレコード盤面に降ろし、トーンアームとレコード盤面が水平であることを確認します。

# オーバーハングの調整

- 付属品以外のカートリッジやヘッドシェルを取り付ける際、カートリッジの取り付け位置を正確に決める必要があります（オーバーハングの調整）。
- 当社ホームページで公開している「オーバーハング調整ガイド」のPDFをプリンターで等倍印刷してご使用ください。

# 本製品を移動するときは

ご購入時の梱包材を使用して、開梱のときと逆の方法で梱包してください。梱包材がない場合は、次の対応を行ってください。

- 電源スイッチをOFFにしたあと、電源ケーブルをコンセントから抜き、ラバーマットとブラッターを取り外し、傷が付かないように梱包してください。ブラッターを取り付けたまま本製品を移動すると、スピンドルが破損するおそれがあります。
- リフターレバーが下がっていることを確認してください。
- トーンアームを、アームレストのクランプを使用して固定してください（トーンアームを動かないようにしてください）。
- カウンターウェイトを取り外してください。
- カートリッジのプロテクターを取り付けた状態でヘッドシェルをトーンアームから取り外し、傷が付かないように梱包してください。
- ターンテーブル本体は、柔らかい布や紙などで傷が付かないように梱包してください。

# 故障かな？と思ったら

## ① プラッターが回転しない

- 電源ケーブルがコンセントから外れていませんか。電源ケーブルをコンセントに差し込んでください。

## ② プラッターは回るが、音が出ない、または音量が小さい

- カートリッジのプロテクターを取り付けたままになっていませんか。カートリッジのプロテクターを取り外してください。
- トーンアームを上げた状態になっていませんか。トーンアームを降ろしてください。
- アンプなど接続機器の機能設定や入力を選択が間違っていないですか。接続機器の設定が適切か確認してください。
- スタイラス（針）が損傷していませんか。スタイラス（針）を確認し、交換してください。
- 交換針がトーンアームに正しく装着されていますか。交換針を確認し、調整してください。
- 針圧が大きすぎませんか。針圧を調整してください。

## ③ 針とびを起こす

- 針圧が小さすぎる、または大きすぎませんか。針圧を調整してください。
- アンチスキッピングの調整が不十分ではありませんか。アンチスキッピングがカートリッジの針圧と同じ値に設定されているか確認してください。
- レコードが反っていませんか。レコードを確認してください。
- レコードに傷が付いていませんか。レコードを確認してください。
- スタイラス（針）が汚れていませんか。ほこりなどが多く溜まっていると、レコードの再生に影響がありません。

## ④ ハウリングが生じる

- 本製品が、床、壁面、または近くのスピーカーから過度に振動を拾っていませんか。振動を小さくするか、振動の影響を受けない場所に本製品を置いてください。
- 本製品が不安定な場所に設置されていませんか。設置場所が適切か確認してください。

## ⑤ レコードの再生音にノイズが生じる

- カートリッジのスタイラスチップ（針先）にほこりが付いていませんか。付いている場合は、市販のブラシできれいにしてください。



## 故障かな？と思ったら

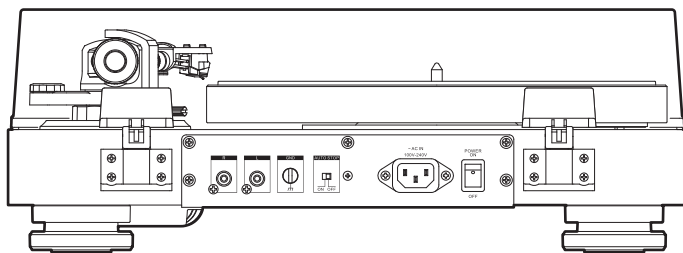
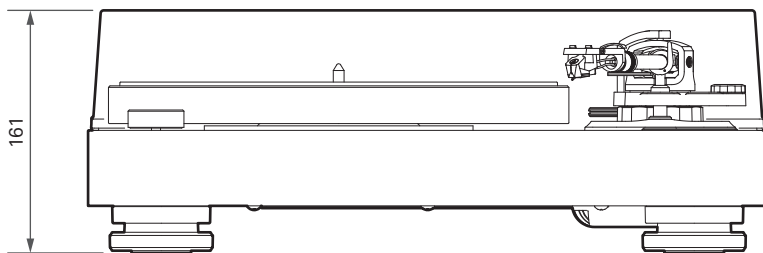
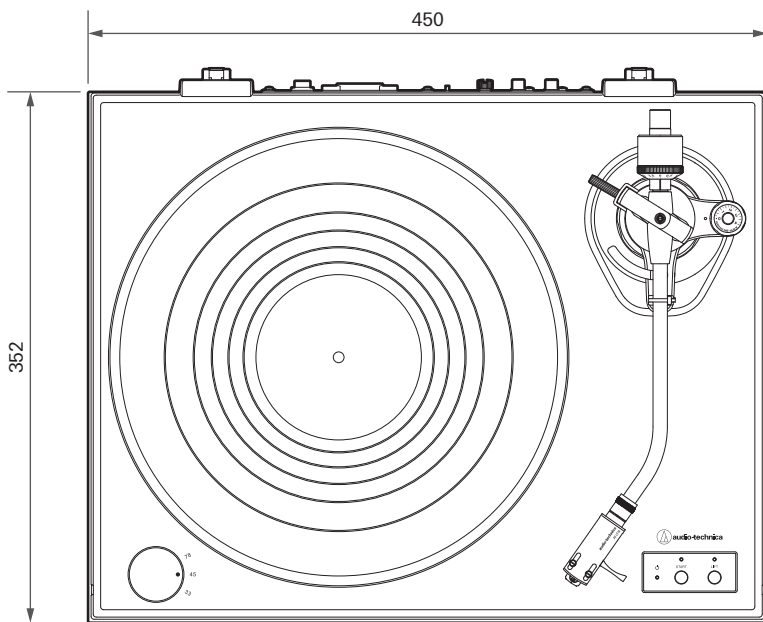
### ① レコードの再生音が速すぎる、または遅すぎる

- 本製品の回転数の設定が間違っていないですか。コントロールノブで、再生するレコードの種類に合った正しい回転数を選択してください。

### ② 再生中にブーンというノイズが入る

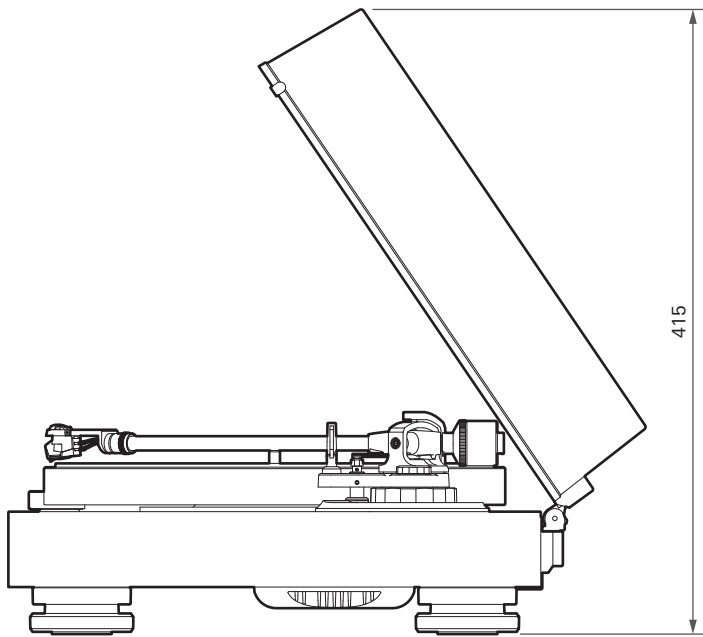
- アース線が正しく接続されていますか。アース線を確認してください。
- ノイズが続く場合は、アース線を取り外してください。ノイズを減らすことができます場合があります。
- ヘッドシェルがトーンアームにしっかりと固定されていますか。ロックナットを確認してください。

# 外形寸法図



(単位：mm)

# 外形寸法図



(単位 : mm)

# テクニカルデータ

## ターンテーブル本体の仕様

駆動モーター	DCサーボモーター
駆動方式	ダイレクトドライブ方式
回転数	33-1/3、45または78回転/分
ターンテーブルプラッター	アルミダイキャスト製、ラバーダンパー
始動トルク	1.0 Kgf.cm
制動方式	電子制動
ワウフラッター	<0.1% (WTD) @3kHz (JIS)
SN比	>60dB
出力レベル	PHONO：標準値4.0mV (1kHz、5cm/秒)

## トーンアームの仕様

種別	スタティックバランス式J字型トーンアーム
有効長	247mm
オーバーハング	15mm
最大トラッキングエラー角	2.0°未満
針圧調整範囲	0.0~4.0g
使用可能なカートリッジ質量範囲 (ヘッドシェルを含む)	14.0~20.0g (サブウェイト使用時：17.5~23.5g)

## カートリッジとヘッドシェルの仕様

カートリッジ型式	AT-VM95E BK
カートリッジ種別	VM型ステレオカートリッジ
推奨負荷インピーダンス	47kΩ
出力電圧	4.0mV (1kHz、5cm/秒)
針先形状	0.3×0.7mil 接合楕円針
カンチレバー	アルミニウムパイプ
針圧の範囲	1.8~2.2g (標準値2.0g)
カートリッジ質量	6.1g
ヘッドシェル型式	AT-LT10
ヘッドシェル質量	約10.7g (リード線含む) 約10.0g (リード線除く)
ヘッドシェルオーバーハング調整 範囲	+5.5mm~-2.5mm (AT-VM95E使用時)

## 一般仕様

外形寸法	450mm×352mm×161mm (W×D×H)
質量	約10.4kg
電源条件	100V、50/60Hz
消費電力	8W
付属品	ダストカバー、ラバーマット、プラッター、ダストカバーヒンジ、カウンターウエイト、サブカウンターウエイト、VM型ステレオカートリッジ (AT-VM95E BK) 付きヘッドシェル (AT-LT10)、EPアダプター、オーディオケーブル (約1.0m)、電源ケーブル (約1.8m)
交換針	AT-VMN95E BK
交換ヘッドシェル	AT-LT10

- 改良などのため予告なく変更することがあります。

**株式会社オーディオテクニカ**

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1  
www.audio-technica.co.jp

**Audio-Technica Corporation**

2-46-1 Nishi-naruse, Machida, Tokyo 194-8666, Japan  
www.audio-technica.com  
©2024 Audio-Technica Corporation  
Global Support Contact: www.at-globalsupport.com